

丸山湿原群保全の会会報

(第 164 号)

発行日：2021 年 (R3) 3 月 17 日 編集/発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788
090-1895-8061 (今住)

E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com



「東日本大震災」から 10 年。10 年はひと区切り？前回の会報にも「10 年はひと昔」と書きましたが、さて震災はどうでしょう。犠牲者数は関連死を含め 22,200 人 (NHK 発表) にも達するそうです。今だに原発 (福島第一原子力発電所) は事故の最中ともいえる状況。まだ除染も始まっていない帰宅困難地域も。本当の一区切りはいつ来るのでしょうか？

SDGs (持続可能な開発目標) が叫ばれる中、廃棄物処理もできない、廃炉すら目途が立たない「発電所」とは一体何なのでしょう？どう考えてもサステナブル (持続可能) ではないような気がします。「バランスのとれた発電」と言われる中、原発を推進していくのでしょうか？最もアンバランスを生み出す発電みたいですが。

西谷の山には、春の気配が。タムシバが咲き出しました。去年も早いと思ったのですが、今年は昨年より更に 1 週間ほど早いような気がします。結局この冬は「平年並み」だったのか「暖冬」だったのか？多分「暖冬…」。

さらに葉を落としたコナラの大木が気になります。このままさらに大木化していくと一体どうなる？バイオマスエネルギー利用も検討中だそうですが、システム化のハードルが高そうです。知恵を出し合わなければ間に合わない！

(今住 3 月 16 日作成)

可愛い長靴隊第 2 弾 2 月 22 日 (金) はなみずき保育園 (本園) 園児 24 名がご訪問！

まず間違い訂正。前回の会報で「はなみずき保育園」を分園、「やまぼうし保育園」を本園と紹介しましたが間違えてました。来られているのは、「はなみずき保育園」の本園と分園。訂正とお詫びを申し上げます。ネット配信分は訂正しましたが、紙ベースは訂正できませんでしたので。

今回は本園 24 名。会員 5 名で対応。人数が多いので心配しましたが、さすが年長さん。前回も同じ年長さんですが、やはり個性は様々。「集団による個性」



第 3 湿原の木道は歩きにくいね～

マイクロバスから降り立った園児たちがあるのかどうかはよくわかりませんが、今回はたきぎ拾いには興味なし。その代わり石を拾う子がいたり、泥んこ道が苦手と怖そうなお子がいたり様々。

「はなみずき保育園」のブログを見てみると、少し前に「発表会」があったようです。テーマに「エルマーのぼうけん」があり、エルマーの世界と実体験が錯綜する様子も。道の岩を見立て「ぴょんぴょこいわ」から「どうぶつじま」へ。

ウルトラマンを見ると「ウルトラ警備隊」になりきっていた自

分を思い出します。「仮面ライダー」はそのものに・・・。私の話はさておき、想像の世界と現実の世界のリンクや「妄想？」はもっとも大きな「学び」ではないでしょうか？そこから新しい「なんで？」「なるほど」が生まれる。興味（好奇心？）・関心こそが生きる力だと思います。堅苦しくなりました。ごめんなさい。

それぞれに自然を感じてくれたようで素晴らしい限りです。又マガヤストローやヒイラギ(柊)、コウヤボウキ(高野箒)の綿毛、ネズミサシ(鼠刺し)。名前の由来や形の違いに、ちょっとでも



豚丼まだかいな～？

「へー！」と思ってくれたらうれしいことです。寒さに耐えるセトウチサンショウウオ(瀬戸内山椒魚)の卵やタピオカのようなアカガエル(赤蛙)の卵も見られたかな？冬を越すテングチョウ(天狗蝶)にもビックリした？

自然は不思議がいっぱい。ぜひまたお越しください。キッチンカー(もどき?)とともに。ちなみに今回のランチは豚丼だったようです。二十数人分の食事をその場で作る。凄いことだとつくづく感心します。電気圧力鍋と炊飯器 2 台で作るそうなの…。やるね！

丸山湿原セミナー(両生類)

★2月27(土)セミナーはオンライン(ZOOM) &会場 ハイブリッド開催！

会場参加 31 名 ZOOM 参加 14 名 調査参加 31 名

コロナ禍の中、今年は夏季セミナーを断念。「両生類セミナーはどうしよう」と中止も含め検討しましたが、講師の田口さんからの提案もありオンラインと会場のハイブリッド開催が実現しました。



司会・進行の私と副代表

ワイプで入った田口さん

講演中 ワイプで田口さん、わかる？ (IT 関連会社)、「北摂里山博物館運営協議会」にもお世話になりました。初めての試みで、しかも「生配信」。トラブル続出か？と心配しましたが、リハーサルの成果もあり無事に終わることができました。課題として残ったのは会場の音声をオンラインにのせるとどうしてもハウリングが起ること。また会場の雰囲気やうまく講師やオンライン参加者に伝えられないことでしょうか。広島からオンラインで講義をした田口さんも少し戸惑われたようです。

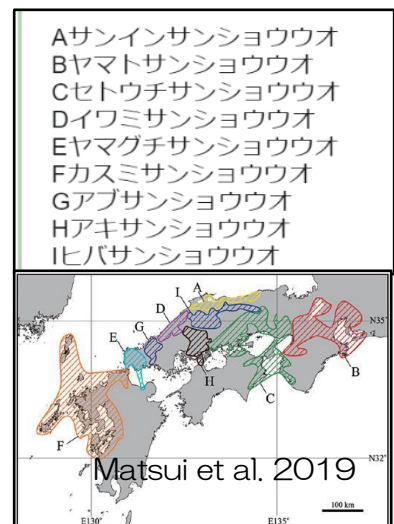
次回はぜひ会場でお会いしたいですが、どんな状況でも「出来る！」ことが確認できたことは成果でした。

さて、内容は「①セトウチサンショウウオって？②両生類には毒がある？③オオサンショウウオ最新情報」。広島からパワーポイントのスライドを使い、いつものセクシーボイスで。



広い会場 密にはなっていません

①のセトウチサンショウウオは2019年にカスミサンショウウオが9分類されたうちの1種。西谷分布はこの種類。しかし何度聞いても違いはどこ？「ひょっとしたらヤマトサンショウウオとの境界線では？」という人もあり、見て分かる違いがあればはっき



2019年にも掲載した西日本小型サンショウウオ分布図

りしたいとお願いしました。結局、地域個体にも変化があり、目で見ての判断はかなり難しそうでした。しかも、さらに細分化される可能性もあるということで…ここらはセトウチサンショウウオ！でいいという結論か？

②両生類の毒には強いものもあるが、触ったぐらいでは問題なし！ただ、目などの粘膜に触れると腫れることもあるので、触ったあとは手を洗った方がいいようです。他の生き物に食べられないためと、皮膚を守る保護作用があるといわれているそうです。



広島から 田口さんのほほえみ

③オオサンショウウオは田口さんの専門。京都鴨川のオオサンショウウオの90%以上が中国オオサンショウウオとの雑種になっていること。中国は中国でオオサンショウウオが国際自然保護連合（IUCN）によって近絶滅種指定。食用（高級食材として）飼育は多くされているが、自然界では相当ピンチ。チュウゴクオオサンショウウオは少なくとも3種以上（5種とも）。「乱獲＋養殖＋放流＝雑種の増大」のようです。日本以上に種の保存としては危機？

日本の環境では、川のコンクリートの段差が産卵行動の大きな障害になっていること、近年の異常気象による洪水で生息場所から流されてしまうことなどをわかりやすく説明していただきました。

小型サンショウウオの危機とはまた別の要因もあるようです。共通するのは連続性。山と水辺、上流と下流、人の生活と自然、人と人？すべてが分断されつつあるようです。それを修正しようとセミナーや保護活動が行われているのですが、必ず「お金＝経済」が絡んでくる。これがややこしい。お金は大事だもんね…。できればたくさん欲しい…欲望の固まりです。



神戸動植物環境専門学校

そんな中、会場参加の6歳「オオサンショウウオ王子（勝手に命名）」から「ねえねえ。オオサンショウウオって獲物を水ごと吸い込むってどうやって吸い込むの？」の質問が。田口さんはちょっとひるまれましたが、「口が大きく、急に開けると水と一緒に吸い込まれるんだよ」と丁寧にお答えいただきました。「ほんわか」した時間が流れました。この子たちが大きくなったときに、「生態ピラミッド」の中間（オオサンショウウオを除く）にいる

神戸動植物環境専門学校 熱心！両生類がたくさん暮らせていることを願うばかりです。この子たちが守ってくれると思います。会場には「神戸動植物環境専門学校（Kap）」の学生さんと先生も参加されていました。夏の「サギソウ開花数調査」にも参加していただいています。今後の環境問題に取り組んでくれることを期待します。色々な意味でこれからが楽しみです。色々ってなんやろ～？

午後 両生類卵塊数調査

午後の卵塊数調査は、現地参加4名を含む31名で実施しました。もちろん私は駐車場で何故かバイバイ。天気も良く気持ちの良い活動になったようです。さて、今年のアカガエル類とセトウチサンショウウオの卵はどうだったのでしょうか？

結論から申しますと、セトウチサンショウウオの卵囊（らんのおう）7対。アカガエル類卵塊（らんかい）21塊。大変少ない？結果となりました。特にセトウチサンショウウオの卵が年々減少？という意見が多く出ますが、調査の集計からはそれほど大きな変化は見

られないように思います。参考までに、ここ5年の数（第1湿原のみ）を表にまとめました。さらにさかのぼると衝撃の0の年も。セトウチサンショウウオの卵は4月にも見つかります。産む時期も多様と考えてはどうでしょう



駐車場で31名を班分け

れないように思います。参考までに、ここ5年の数（第1湿原のみ）を表にまとめました。さらにさかのぼると衝撃の0の年も。セトウチサンショウウオの卵は4月にも見つかります。産む時期も多様と考えてはどうでしょう



セトウチサンショウウオの卵囊

卵囊のある場所の水深測定中

か？湿原の保全方法に特に問題があるとは私は思いません。外来種や人の脅威はあるかも知れませんが…。またご意見をお願いします。湿原内の切り株が減少しているとか、倒木を片付けすぎだとか…。

(参考 第1 湿原のみ 調査年ごとの比較 ラインセンサスを基本としています)

種	年月日	2017/2/26	2018/3/4	2019/3/2	2020/2/23	2021/2/27
セトウチサンショウウオ卵囊		10 対	10 対	3 対	12 対	5 対
アカガエル類の卵塊		26 塊	40 塊	27 塊	17 塊	21 塊



どこにあるん？
どこにもないと思いますが、セトウチサンショウウオの卵は草などに絡めて産み付けられていることが多い。水に流されないようにしているとか。それが切られると下流へと流されてしまいます。ご注意ください！
では、また来年。来年は行くで～！出禁解除や！

調査の様子はのんびりそのもの。子どもたちや若い世代の参加もあり活気も十分。そこら中に両生類の卵があれば…。それも気持ち悪い。水際や酸化鉄で赤くなった水底を丁寧に探します。

無いように見えてもあるのがこの手の卵。見つけたときの感動はひとしお。ついつい持ち上げて「あったで～！」と叫びたくなりますが、これは禁じ手。やっちゃった人は反省。実際には誰もして



両生類ポーズで集合写真

定期活動★3月13日(土) 定期基礎調査 6名で活動 駐車場で冷かし1名
両生類卵塊数調査センサスライン撤去

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導度 (EC)	PH
丸山	65	58	入口	10:02	10.0℃		
ハイキング	5	32	第3湿原	10:55	【12.9℃】	29.3 μS/cm	6.8
散歩・登山	51	52	視点場	11:05	12.0℃	24.3 μS/cm	6.8
			第1湿原	11:10	【14.7℃】	27.5 μS/cm	6.8
			第2湿原	11:29	【12.0℃】	29.5 μS/cm	6.7

来場者数 計 263 人
(竹筒ポスト人数)



下草刈り後の山林



処理されたナラ枯れ木

2月の後半から、今年も「丹波市森林組合」の皆さんに、下草(山の雑木)刈りに入っていただきました。今年は第3湿原東側。毎回のことですが、大変丁寧なお仕事に感謝いたします。さらに、歩道沿いにあるナラ枯れ木(高木)の処理(県発注)も「西谷自治振興」さんにしていただきました。ありがとうございました。
この日は調査日ですが、センサスラインの撤去も行いました。前日相当風と雨が強かったようで、川の水が増水。湿原は？と思いましたがそれほどの変化はなく平和そのもの。やはり不思議な水のめぐりです。
セトウチサンショウもかなり成長し、幼生としてハッチアウト？するのも目前のようです。アカガエル類は多くがオタマジャクシに。流されたものもいたかもしれません。生活圏の拡大か？それとも試練が待っているのか？そもそも生きることは試練か？あんまり考えんとこ…。紙面が…。参加していないのに書いてしまうのも…ええんやろか？



ライン回収作業

次回活動 3月28日(日) 4月10日(土) 25日(日) 5月8日(土)